津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

令和６年度 津山洋学資料館 秋季企画展
蘭学・洋学三津同盟　中津 × 津山

中津藩と蘭學の夜明け



村上玄水肖像画（村上医家史料館）

前野良沢肖像画（個人蔵）

2024年
9/28(土) ▶ 11/4(月・祝)

開館時間：9:00 ～ 17:00 （入館は 16:30 まで）
休 館 日：9/30(月),10/7(月)・15(火)・21(月)・28(月)　※会期中
入 館 料：一般 300 円（240 円）／高校・大学・65 歳以上 200 円（160 円）
※（　）は 30 名様以上の団体料金
※障がい者手帳をお持ちの方と介護者 1 名は無料

会　　場：津山洋学資料館　企画展示室
岡山県津山市西新町 5 番地

森の芸術祭
FRIENDS
PROGRAM

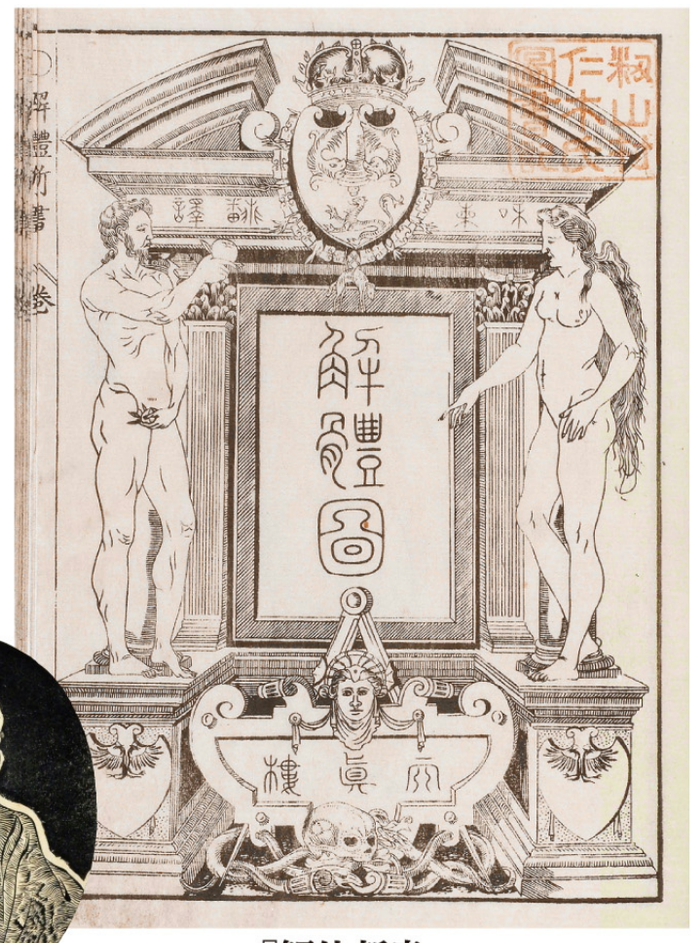
中津藩と 蘭學 の夜明け

「蘭学」とは、日本の学問である「国学」に対して使われる言葉で、いわゆる鎖国時代に唯一、ヨーロッパの国で交易を許されていた、オランダ（和蘭）の学問を意味します。

この「蘭学」の夜明けとなったできごとが、明和八（一七七一）年から始まった杉田玄白らによる『ターヘル・アナトミア』の翻訳事業です。翻訳版は安永三（一七七四）年に『解体新書』として出版され、「蘭学」を広めるとともに、「医学」の飛躍的な発展をもたらしました。この事業には、中津藩医の前野良沢も関わり、教科書でもその名前を見ることができます。では、この大事業が江戸の中津藩邸で始まったことはご存知でしょうか？

この企画展は、令和三年に締結した「蘭学・洋学三津同盟」事業の一環として、今年、出版から二五〇年を迎える、『解体新書』を改めて見つめ直すとともに、「蘭学胎動の地」ともいえる中津藩の「蘭学」に注目します。

「蘭学」始まりの１冊



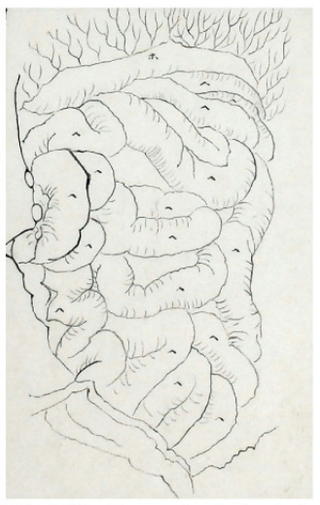
『解体新書』
（仁木家資料）



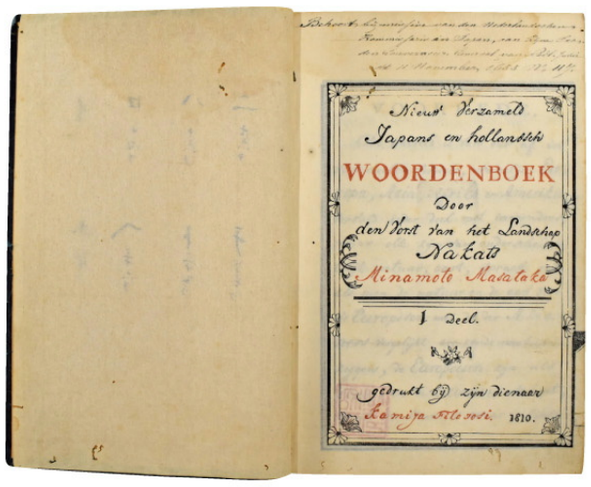
『蘭学階梯』
（仁木家資料）



『解体文』（彩色）
（慶應義塾大学信濃町メディアセンター
（北里記念医学図書館））



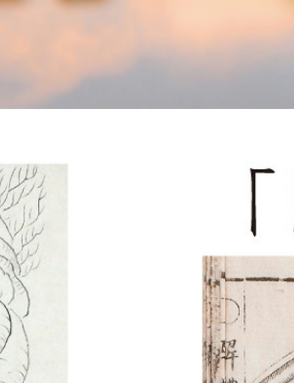
『解体文』（下書き）
（村上医家史料館）



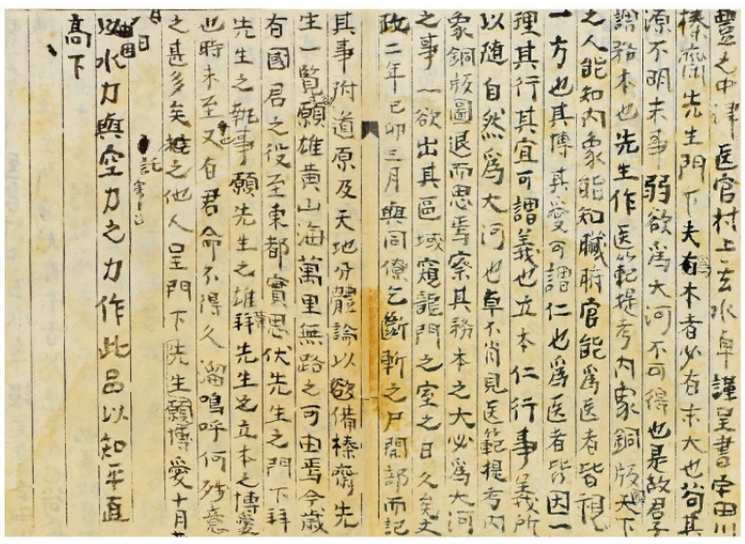
『蘭語訳撰』
（中津市歴史博物館）



第３代藩主　奥平昌高
（中津市歴史博物館）



杉田玄白
（『蘭学事始』より）



呈宇田川榛斎先生書
（村上医家史料館）

中津×津山
蘭学者の交流



宇田川玄真（榛斎）
（武田科学振興財団杏雨書屋）

蘭学・洋学三津同盟

「津」という字を地名にもち、江戸後期から明治初期にかけて、優れた蘭学者・洋学者を輩出した、津山市・中津市（大分県）・津和野町（島根県）の3つの自治体で令和3（2021）年に締結しました。

津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833
岡山県津山市西新町5
TEL：0868-23-3324

▼HP はこちら

交通のご案内

◆バス　JR 津山線津山駅より東循環ごんごバス
南廻り線で 12 分、西新町バス停下車徒歩 2 分

◆お車　中国自動車道　津山 IC から 15 分／院庄 IC から 20 分

